教科の目標及び学年の目標はどのように改訂されたか。

1　家庭科の目標

基本的な考え方は従来と同様である。

①衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して，②日常生活に必要な基礎・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに家庭生活を大切にする心情をはぐくみ，③家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

◇　①では製作，調理，などの実習や観察，調査，実験などの実践的・体験的な活動を通して学習するという教科における学習方法の特質を述べている。

◇　②では，日々，繰り返し営まれる家庭生活の中で家族とともに自分が成長していることを自覚し，衣食住を中心とした生活の営みを大切にしようとする意欲や態度をはぐくむようにする。これらの意欲や態度が，生涯にわたる家庭生活を支える基盤となる。

◇　③では，最終目標として，家庭生活を改めて見つめ直したり実感したりすることによって，現実の自分の生活の中から課題を見いだし，身に付けた知識や技能を活用して，家族の一員として生活をよりよくしようとする工夫する能力と進んで実践しようとする態度を育てるようにする。

2　学年の目標

従前どおり，学校や児童の実態に応じた指導ができるようにするため，学年の目標は２学年まとめた示し方としている。

〈家庭生活への関心や意欲〉

（1）　衣食住や家族の生活などに関する実践的・体験的な活動を通して，自分の成長を自覚するとともに，家庭生活への関心を高め，その大切さに気付くようにする。

・　家庭生活への関心を高め，衣食住を中心とした生活の営みの大切さに気付くよう，関心・意欲を高めることが重要。

・　「自分の成長を自覚する」とは，これまでの自分を振り返ることによって，衣食住などに関する実践的・体験的な学習を通して「してもらう自分」から「できる自分」へと成長していることに気付き，これからの自分について展望すること。

〈日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能〉

（2）　日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け，身近な生活に活用できるようにする。

・　基礎的・基本的な知識及び技能は，生活における自立の基礎を培い，健康で自分らしい生活をするために必要であり，また，他の新たな知識や技能を獲得する基となるもの。

・　基礎的・基本的な知識及び技能は，自分の考えを働かせながら工夫する経験を繰り返す中で身に付いていくもの。

〈活用を通して生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度〉

（3）　自分と家族などとのかかわりを考えて実践する喜びを味わい，家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

・　目的をもって生活を見つめ，家族や近隣の人々とのかかわりの中で，生活をよりよくするために工夫する能力と，生活において実践しようとする意欲的な態度の育成を目指す。